

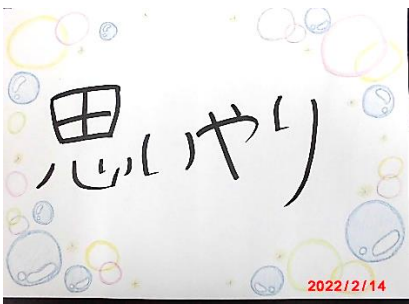





## 2年間の“福祉”の学びを一言で表してみました。

さて、とうとう系列の授業も終わりました。卒業式も終わり、もう皆さんはそれぞれの進路に向けてその歩みを進めています。

“福祉”の最後の授業で、2年間の学びを一言でまとめる作業をしました。2019(平成31)年度入学の生活福祉系列14名の“福祉”の集大成です。

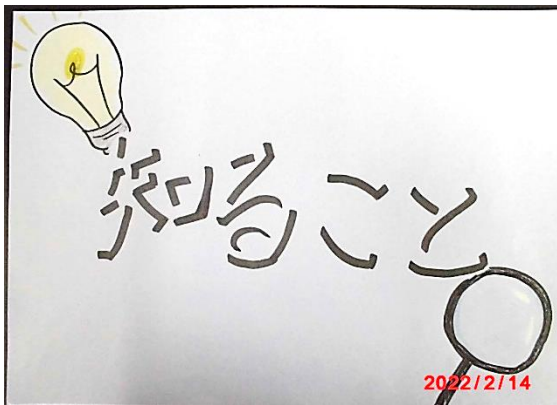
|   |   |
|---|---|
|    | <p>私は介護福祉基礎を勉強して、相手の気持ちをよく考え行動することが大切だと思いました。</p> <p>なので、一人一人が人間らしく生きていくために平等の心を持って、ともに助け合い、支え合うことが大切だと思っていたのでこの言葉を選びました。福祉とはお互いが笑顔になるものだと思います。</p>   |
|   | <p>私が2年間学んだ「ふくし」は「助け合い」です。今までを振り返ると、実技をするときはいつもペアになって行い、自分ができないことがあったらペアの子が助けるし、ペアの子ができないことがあったら自分が助けていたので、ふくしとは「助け合い」だと思います。</p> <p>福祉以外でも学校や街中で助け合っている所をよく見かけるので、どの場面でも「助け合い」は大切だと思いました。</p>            |
|  | <p>私が学んだ福祉は「思いやり」です。</p> <p>福祉の中で一番思いやりが大切だと思います。人と人をつなぐためには、思いやりの気持ちがないと成り立ちません。もし困っている人がいたらあなたは助けますか？助けませんか？思いやりの気持ちがあったら助けると思います。困っている人も良い気持ちになり、助けた方もうれしい気持ちになり、心が暖まります。なので、思いやりの心を持つことが大切だと思います。</p> |
|  | <p>「ふくし」というものは「思いやりの連鎖」だと思います。もし誰かが困っていたら助けますよね。その助ける行為、そのこと自体が「思いやり」であり、「ふくし」なのではないかと思います。そしてその助けられた人がまた違う誰かを助ける。そうやって思いやりの連鎖は続いていきます。普段なにげないところで「福祉」というものをみなさんはやっているのかもしれないね。</p>                       |



私が2年間学んだ「ふくし」は「思いやり」です。

相手のことを思って、自分に何ができるかや相手がどうしてほしいかなどを考えて行動することが「福祉」の様々な場面で大切だと思いました。

このように優しさをもって相手と接することは「思いやり」だと思ったので、「ふくし」は「思いやり」だと思います。



ふくしはいろいろなことがあります。そのどれもが全部知識を得るところから始まると思います。例えば介護でいうと清拭。私たちはどこからどのようにして拭くのだという手順を“知って”から実行しました。

他にも視覚障害を持つ方の話を聞いてどのように生きてきたのかを“知る”ことができました。点字や手話なども私たちは学び、“知る”ことができました。私はこのすべてに知ることが含まれていることに気づき、ふくしとは知ることだと思いました。人を支える前にその人を知ること。それが福祉に必要なものだと思います。



私は福祉は公平なものだと思う。利用者それぞれの気持ちを考慮して、一人一人違う対応をするため、平等ではなく公平なものだと思ったから。また、バリアフリーなどまだ完璧に公平になっていない部分もこれから公平になっていけば良いなという願いを込めてこうした。



私の考えたふくしは平等です。

要介護者と関わる前は、最初からこの人はこうだからできないとか、障害者だからしなくてもいいという、決めつけや偏見が多いと思います。

でもそれはただの決めつけであって、思っていたこととちがったなや、やってみたらできたなどあると思います。だから「平等」の心をもって、まずは一人の人としていつもと同じように接する、偏見、差別をなくすことで、その先の介助、その人との関係がよりよいものになっていくと思うので「平等」ということばにしました。



「ふくし」とはいわば人と人との関わりや支え合いからなる「繋がり」であり、協力でもあるから「繋がり」とは、人と人との関わり合いや連携といったニュアンスの言葉であり、2年間学んだ「ふくし」で、人と人のかかわりの大切さを知ったので、福祉では欠かせない「繋がり」という言葉にしました。



私は福祉がなにかと考えた時「ゆとりを持って傾聴しみんなで支え合う」と考えます。

私たちが初めに傾聴とはどんなことか習った時、耳を相手に傾けて話を聞くことだと教えてもらいました。心にゆとりをもてば相手の気持ちを知ることができる時間が増えます。何かお手伝いする時も、今、何をしてほしいのか聞くことができます。

ですが、一人ですべてやろうとするといつかは傾聴できなくなります。ですから、みんなで協力して、サポートをする人、サポートを必要としている人同士だけでなく、サポートする人同士でも支え合うことが大切なんじゃないかと思います。



私が考える福祉とは支え合いです。福祉について学ぶ前は、介護者の方が支えている側だと思っていました。でも福祉を深く学んでいき、要介護者の方から支えられることもあると学びました。

生活福祉系列で2年間学んできて、福祉は自分が支えるだけではなく、時には支えられていることがあると学びました。

なのでふくしは支え合いだと思いました。



私が思うに支え合いを必要とするのは、高齢者に限ったことではないと思います。介護をしている家族や障害の方、子育てに悩む方々など様々な人が手助けを必要としています。

なのでこれからは「支え合いの街づくり」が必要になってくると思います。例えばゴミ出しのお手伝いや一緒に買い物することでお互い困っていたら助け合い、支え合うことが、福祉なんじゃないかなと思います。



私は人と人が支え合うことで福祉が生まれると思います。困っている人を助けるその行動が福祉だと思います。

人は支えてもらわなければ生きていくことができないと思います。

私は生活福祉系列で利用者さんを介護して支えたり、ときには利用者さんと協力をして支え合うことが大切ということ学びました。

支えてもらったらずえ返すのではなく、自分から積極的に手助けすることが大切だなと思い、この言葉を選びました。



福祉の授業を通して、日本中、世界中にはさまざまな人がいることが分かりました。障害を持っている人、いろいろな問題を抱えた人がいます。そのせいで、差別され、傷ついたり、自分らしく生きられない人たちがたくさんいると思います。たとえ障害があっても、普通の人と同じようにお仕事をしたり、学んだりすれば、障害の人々も住みやすい社会になると感じました。

これから社会に出るとたくさんの人と関わることが増えると思います。いろいろな問題を抱えている人と出会うかもしれません。その時は差別をせず、一人の人として接して助け合っていきたいです。

縁あって生活福祉系列で学んだ2年間。14名がお互いに切磋琢磨し、さまざまなことを身につけたと思います。

皆さんの学びの後ろには、先生方の丁寧な指導もあったし、地域の方々の様々な支えがあって成り立っているものです。

自分たちの努力をまずは褒めていいと思います。ただ自分一人では成しえなかったことが、14名というちょうどいい感じの人数でできたことは確かです。

2年間の村上桜ヶ丘高校生活福祉系列での学びを支えてくれたすべての方々に感謝しつつ、いい思い出にしてくれたらいいなと思います。

さて、この「生活福祉系列だより」では、ごく当たり前の授業風景を取り上げてきました。どこでもやっているような当たり前の日常。そこにあえてスポットを当ててみると、実はいろいろなことが見えてきます。

あえて特別なことをしなくても（できなくても）、いつもしていることに大きな学びがあります。それを積み重ねることで大きな成長につながります。

今回、授業の関係がたまたまうまくいきて「生活福祉系列だより」を何度か発行できました。実際は写真を撮ることすら難しい現状があります。学校の活動をアピールしましょうなんて言われますが、どんな題材を流せばいいのか？普通のことしかしていないからアピールするなんて・・・という声を聞きます。この程度の紹介でもいいのではないのでしょうか？

次年度以降もどの程度可能か読めませんが、発信できればと思います。